

キャンヘルプタイランド

ネットワーク通信

バンコク便り

2012年11月25日発行 第59号

バンコク在住の西川会長から

このところ、日本のメディアでもミャンマー情勢を伝えることが多くなりましたが、ここタイでもミャンマーの話題を見聞きする機会が増えてきたように思います。

私自身がミャンマーという国を初めて意識したのは、約12年前、タイに住み始めたころのことです。私が当時勤務していた大学は英語で授業をすることになっていたため、欧米系の先生のほか、英語圏のインドやフィリピンから来た先生が多く勤務していたのですが、なぜか英語圏でもないミャンマー人の先生がかなりの数、勤務していたのです。そこでのミャンマー人の印象は「真面目で、きちんとしている」人が多いということでした。試験監督でいっしょになることが多かったのですが、試験会場で携帯電話を使ったり、おしゃべりを始めてしまったりするタイ人の先生を見て、「信じられない」と意見が一致するのはたいていミャンマー人の先生でした。親しくなるにつれ、先生方からいろいろな話を聞く機会も増えていきました。

「ミャンマーでは大学内にも軍関係者がいて、試験監督のとき、おしゃべりするなんてありえない！」

「一箇所に立ち止まっているだけでも、カンニングに加担したとみなされて、すぐ処分されるのよ」など。そのうち、「この間、帰国したら入管で、電気製品を没収されちゃった。電気製品は諦めるけど、それが軍事政権の役人の懐に入ったかと思うと悔しくてたまらない。」など、仕事以外の話もするようになり、「ビルマの豎琴」ぐらいしかイメージのわかかなかったミャンマーについて、私も少しずつその実情を知らされることになり、そして、最後はタイの大学にミャンマー人の先生がいる理由についても知ることになったのです。

ある先生は、ミャンマーの大学に勤務していたときに、民主化デモが起こり、連日そのデモに参加していたそうです。ある日、体調を崩して一日休もうと思ったその日に、軍による銃撃があって、デモに参加していた多くの教え子たちを失ったそうです。その先のことは詳しく聞きませんが、その先生はいつも「軍事政権が続く限り、ぜったいに国には帰らない」と言い、一方で「軍事政権が倒れたら、すぐ帰りますからねー。ハハハ」と笑ってみせるのでした。この先生のように、多くのミャンマー人の先生たちが国を追われて、また国を捨てて出てきた人たちなのでした。国内政治に翻弄され、人生を狂わされた人が、テレビの中ではなく、今、目の前にいることに私は大きな衝撃を受け、それと同時に、こうした人たちと身近に接することで、日本にいたら考えることがなかったようなことに思いを馳せることができたことに感謝に近い思いを抱いたことを覚えています。

その後、タイでもミャンマー人の存在感は年々増しているように思います。報道によると現在では100~200万人のミャンマー人がタイで働いているとのこと。特に、タイ人が嫌う3Kの職場では、ミャンマー人が重宝されているようで、数年前から、私自身も町でミャンマー人を目にするが多くなりました。フードコートの食器片付け係やコンドミニアムの清掃員など、顔立ちがタイ人と少し異なり、タイ語ではない言葉を話す人達をときどき目にします。工場でも、ミャンマー人を好んで使うところが増えていようにも聞きます。昨今では労働者不足が経済成

長の足かせになるのではないかと議論されているタイですから、ミャンマー人を始めとする外国人労働者の存在はもはやタイ経済にとってなくてはならないものと言えるでしょう。

ミャンマーが着実に民主化に向かっていっているように見える今日このごろ、ミャンマー人労働者に大きく依存しているタイ経済が今後どうなるのか、そして大学で出会ったあの先生たちは今どうして、今後どのような選択をしていくのだろうか…。そんなことをふと考えてしまいます。

ますます、隣国ミャンマーの情勢から目が離せません。

西川弘達

報告 1

～図書支援プログラムからの報告～

岐阜県可児市主催の「手づくり絵本大賞」コンテストは今年で15回目を持って最終と決まっていました。この記念すべき大会に今年もタイから選ばれた3作品を応募しました。今年で9回目応募となりました。

今年の実応募作品は「幸せのプレゼント」・作者は女子高校生1人の作者。2作品は「プレゼント泥棒」・作者は高校生3人の合作作品。3作品目は「テイソン君からのプレゼント」・作者は高校生3人の合作作品、以上の3作品を応募しました。毎年「FREE」が広報して、集まった数十作品から選ばれた作品が応募されます。

コンテストの締め切りは毎年9月の中旬が締め切りです。4月上旬に「テーマが決められ、テーマに沿った内容の絵本造りを競えます。今年のテーマは「プレゼント」と継続テーマの「ばら」でした。ちなみに昨年のテーマは「くだもの」でした。

今年の実応募作品は国内、外国を含めて316作品の実応募の中でタイの3作品がまとめて今回特別に「審査員奨励賞」に選ばれました。タイからの作品は13回大会の「奨励賞」入選に次ぐ成績でした。

近年実応募作品のレベルが高くなり、毎年密に入賞を期待していました。作品に寄せる審査員の講評も毎年暖かいものを感じていました。今回の「審査員奨励賞」は規定にない賞で、今回が「初めの最後の賞」となりました。それだけタイの人達の絵本造りを応援する気持ちの現われと感謝します。第13回入賞作品の「蝶ちゃんの光」作品をタイで絵本として製作に取り掛かって2年経過しましたが、ようやく年内には完成予定です。次回NT通信60号に詳細報告いたします。

8年間実応募したコンテスト終了にあたって「FREE」で実応募作品のコーディネーターに尽力した「ムティタ」さんの感想を掲載します。

可児市絵本大賞へ8年の実応募の感想

あっという間の8年でした。子供が作る絵本は面白くて毎年わくわくして絵本が入ってくるのを待っていました。タイではここ10年児童読書のことを推進しており、絵本作成の研修会もいろんな団体がたくさんが主催して、技術も発想もどんどん発達してきました。年々実応募者の輪が広がっていき、奨学生、学校関係者、一般の方々も参加するようになりました。FREEで一回審査していい作品を表彰し、更に

いいものを日本の大会に出す、という仕組みはいい刺激になったと思います。可児市の絵本大会は今年で終了というのはとても残念ですが、FREE では続けていきたいと思っています。また日本のどこかの絵本大会に出すチャンスがあれば是非教えてください。

次に「審査員奨励賞」作品の作者から「受賞の言葉」が寄せられました。可児市の「広見公民館ゆとりピア」にて 11/3 日～11/11 日の作品展に展示されます。以下全文を紹介します。

「受賞の言葉」

審査員奨励賞・受賞作品 「プレゼント泥棒」

作者・タイ王国・カンヤナット・ポーンジャントーン他2名(高校2年生)の合作品

こんにちは。

私たち「プレゼント泥棒」の作者です。この作品は最初、人にプレゼントするためのものでした。それがきっかけで私たちのスタイルに合うような絵本大会を探して、今大会のことを知りました。

大会なんて絶対に賞取れないだろうと思ったのですが、～“心のゆくままにしてみないと、～どこまでいけるか分からない。～君がトライしてみるだけで～”(Singular というバンドの Try という歌) 作品を作って応募することになりました。

作品の作成期間は3ヶ月くらいでしたが、私たちが実際に作業したのはたった3日間。朝から晩まで絵を描き、色塗り、紙をどれだけ切ったのか。とても疲れました。しかし“私たちの”完成作品を読んでもみると、結果はどうであれ、心のゆくままにトライしてみたことはとてもやり甲斐のあることだとわかりました。

この機会を使って誰かに感謝するのであれば、まず歌を歌った2人の歌手に感謝します。この歌がなければ絵本大会に応募することなく、入賞した今日もないでしょう。

そして、私たちが作った作品のいい所を見てくれて、機会を与えてくれたコーディネイト団体である



FREE、CAN にも大変感謝します。

そして私たちにこのチャンスを与えてくださった可児市絵本大賞の審査員、関係者各位、審査員奨励賞本当にありがとうございます。私たちが夢を追う、一つのステップになりました。

最後に、生まれてからずっと愛と力を注いでくれて、どんなことがあっても隣にいてくれる両親に感謝します。

「プレゼント泥棒」作者一同



報告2

～すみれ基金奨学生からの手紙～



皆さん、こんにちは。

この手紙は皆さんへの最初の手紙になります。私にとって、今年一番のいいニュースは、大学へ進学するための奨学金を受けられる話です。これで夢の実現は可能になります。

そして私は Srinakarinwirot (Onkarak) 大学の保健教育にごうかくしたことは5月8日に発表されました。進学できることを聞いてとても嬉しかったとともに、大学での費用のことが心配です。これからは困難なことがたくさんあるでしょうけど、精一杯頑張るしかないと思います。

新しいところでは学ぶこと、適応することがたくさんありそうで、これからは水泳の選手みたいにゴールまで頑張って泳いで行きたいと思います。奨学金の支援ありがとうございます。

Areena Masaejanae



私はアディチャート・ドンパンムアンと申します。Mahasarakam Technical College の学生をしています。すみれ基金や財団の皆様、私やタイの学生に教育のを支援してくださることに大変感謝いたします。そして社会貢献活動は他の人と一緒に仕事をする訓練にもなり、奉仕の心を生み出すものだと思います。私は建設専攻、土木専攻などの学生代表となって、いろんな活動をしてきました。地域のためのボランティア・キャンプにも参加し、学生が集まる場所作りも自分から提案してやっています。

最後にもう一度すみれ基金及び財団の皆様へ感謝の気持ちを申し上げます。学生の活動の重要性を感じてくださって本当にありがとうございます。

報告3

～奨学生からの手紙～

奨学金授与式の時に奨学生が書いたドナー宛ての手紙の一部をご紹介します。

手紙はタイ語で書かれていますが、ボランティアによって翻訳された後ドナーの皆様へ郵送されます。

こんにちは。わたしは Umaporn Choorat です。今はシンサマッキー学校の二年生です。わたしはこの奨学金を頂くことができ、本当にうれしく、感謝しております。勉強を頑張り、両親の言うことをよく聞き、よい人になろうと思います。そして、今日と未来を精一杯生きて行きたいと思っています。

「ありがとう」という言葉は短いですが、その言葉は親切にしてくださった方に贈る言葉であり、また、偉大な言葉だと思います。ですから、私に奨学金をくださった方に、「ありがとうございます」と感謝させてください。

Umaporn Choorat

支援者の方へ

わたしは Kullaporn Ketjai です。ヤソートン県〈郡名・区名〉にある、〈baan kudkun(学校名)〉学校の中学二年生です。

奨学金を頂き、本当にありがとうございます。

わたしはこのお金をきちんと役立て、勉強に必要な物を買ったり、昼食代に使わせていただこうと思います。

私の家は学校から4キロの所にあつて、年下の兄弟たちと一緒に自転車で通っています。学校から帰ったら、母が家事をするのを全て手伝い、それが終わったら、収入を得るために編み物のかばんを作っています。

私の家族は5人です。父は母が私を生んだ頃に亡くなっています。母は田んぼの仕事をしていて、暮らしていけるだけの生活費があります。私は大きくなったら、日本語の教師になりたいと思っていますが、日本語について何も知らないので、できれば、財団の日本の方に「あいうえお」の五十音を書いて教えていただきたいのです。そうしたら私は自分で読んだり書いたりする練習ができるからです。

皆様とご家族が健康で幸福にお過ごしになれますように。

尊敬を込めて

Kullaporn Ketjai

支援者の方のお名前がわかりませんが、わたしの名前は O'pol です。でも、わたしは日本の名前もあるんですよ！それは、・・・”オーポーちゃん”です。

奨学金を受け取りに行ったときの話をしたいので、最後まで聞いてくださいね。

本当にドキドキワクワクだったんです。読んでみてくださいね。

2055年(2012年)6月24日、わたしはマハサラカム県へ奨学金の受け取りに行ってきました。バイクに乗って、受け取りの場所まで行きました。でも、着いた時はまだだれも来ていなかったんです。それで、ただ待っているしかありませんでした。

そのうち、おばあさんが一人やってきて、どうやって来たのなどと声をかけてきました。

その後、もう一人やってきました。わたしはいい仲間ができたと思いましたが、その人はあんまり話さない人でした。

わたしはみなさんが来るのが待ち遠しくて、たまりませんでした。ムさんと、おじいさんが来たときは、うれしくてたまりませんでした。そして、奨学金を受け取る式のあと、ケーン(タイの伝統的な楽器)の演奏や英語の話を聞きました。

私はあなた様に質問があります。

1. お名前は？(what your name?)
2. おいくつですか。(How old are you?)
3. どこに住んでいますか。(.....)
4. お元気ですか。(How are you?)
5. どうしてわたしに奨学金をくださったんですか。(.....)
6. どうして子供たちに機会をあたえてあげようと思ったんですか。(.....)
7. どうしてこのような奨学金を受け取れる子供は少ないんでしょうか。(.....)

わたしがより成長できる機会をくださった支援者の方に心から感謝しております。

どうかあなたが、健康で過ごされますように。そして、これから幸運ばかりが訪れますように。

Happy でいてください。

Kultida Wannasopa

作文 私の好きなこと

私が一番好きなことは国王の教えです。それは「足るを知る」と「新しい理論」です。

「足るを知る」はバランスの良い教えです。持っているものが少ない場合、少し使うということと必要な時の蓄えを考えるという教えです。一番好きな教えは自給自足です。私の家族は家庭菜園をしています。たくさんではないですが、家で使うには十分な量です。家で作れない材料は買います。家庭菜園は食費の節約ですから、私の家族にはとても役に立てます。「足るを知る」は誰にでも合う考えだと思います。

「新しい理論」については、空間を分ける教えです。限られた空間を有効に使うことによって、より良い暮らしができます。国王の新しい理論を実践する人達はもっと暮らしができると思います。贅沢な生活ではないですが、足りるとおもいます。

タイ国民の皆は国王の教えを実践したら、皆良い暮らしができて幸せになるとおもいます。

学生番号 SR-S-136

資料

～千種ロータリー記念事業～

来年度、千種ロータリークラブの記念事業として建設プログラムをおこなう予定です。そのプログラム実施のために、タイ各地の学校へ建設事業の募集を行ったところ多数の応募がありました。その中から最終選考に残った3校をご紹介します。来年度の建設事業ではこの中から1つを選び、支援を実施します。

施設名	サンワーン・ウィッタヤー学校		場所	メーホンソーン県メーサリアン	
敷地面積	10.25 ライ	教員数	35 名	生徒数	531 名
特徴	国王の母の「辺鄙な所に学校を作り教育のチャンスを与える」方針で作られた全国10校の内の一校で県内唯一の一貫校で250名の寮生が生活している				
環境	<ul style="list-style-type: none"> ● メーホツ村はキャベツ、米、トマト等の畑作中心で人口600名 ● カレン族、モン族が多く住む村 ● 標高1118Mで国道108号線に面する10ライの敷地にぎっしり建物が建っている 				
案件	2階建て4部屋)	総予算	2,530,000B	申請予算	2,530,000B
予算内訳	建物189万、備品64万(机椅子中心) <ul style="list-style-type: none"> ● 1F 吹き抜け、2F は普通教室が4つ 				

	<ul style="list-style-type: none"> ● 1Fは図書館と教室2つに改装予定 ● 現在文部省基準より10教室不足しており、体育館や廊下で勉強している ● 予算配分が少ないので各種の寄付を積極的に取りに行っている ● 必要性、緊急性共にある ● 地域からの要望に学校設備が追いついていないが子供たちに教育の機会を与えるために無理をして生徒を受け入れている ● 寮の部屋が大幅に不足している事も大きな問題 ● 木造の老朽校舎を壊してそこに新教室を建て、畑になっている場所（校舎新築予定の場所）に廃材を利用して寮を建てれば350万B程度で収まり現状の問題点は一挙に解消する（現状は寮ではなく「収容所」の印象を持つほどに子供たちを詰め込んでいる）
感想	学校が大きくて備品などが揃っている。いろんな機関から寄付をもらっている模様。ある意味しっかり管理してくれそう。

施設名	バン・メーガオ学校		場所	メーホンソーン県ソブムアイ	
敷地面積	24,445 ライ	教員数	8名	生徒数	120名
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校には電気がなくソーラー発電でまかなっていて雨季は寄付された発電機も併用している ● 校長以外は2年未満で転任してしまう程不便な村 ● 美術や工芸が得意な生徒が多い ● 牛、ヤギ、鶏を飼い寮生60名の食費の足しにしている 				
環境	<ul style="list-style-type: none"> ● メーガオ村はカレン族90%で田畑はなく日雇いで生活しており就学率も100%ではないと思われる ● 村は国立公園の中にあり商店もなく「隔絶された村」の印象がある 				
案件	校舎（1階建て3部屋）	総予算	1,000,000B	申請予算	1,000,000B
予算内訳	<ul style="list-style-type: none"> ● 建物86万、備品24万で不足分は村人の労働奉仕で人件費を圧縮する予定 ● 現在幼～6年で6教室しかなく4～6年は教室を半分に仕切り使用中 ● 整地費用（概算3万～5万B）の追加が必要 ● 郡に50校あり今年は1校しか予算がつかなかった 				
感想	<ul style="list-style-type: none"> ● 必要性、緊急性ともにある ● 校舎が出来れば村人から要望が強い中学開設に道が開ける（2年後に開講できる） ● 現在は20Km離れた隣村の中学へ行きそこでの寮住まいだが途中退学者が多く出ている（高校進学率は50%以下） ● 校舎が出来れば職員室、コンピューター室を作れる ● WC時は学校の前の政府施設に宿泊可能だが現在マラリヤが発生しており対策が必要 				

施設名	ラウクワン・ラットバムルン学校		場所	カンチャナブリー県ラウクワン	
敷地面積	64 ライ	教員数	35名	生徒数	767名
特徴	● 中400名、高400名				

	● 在校生の大学進学率は90%（バンコク近郊の標準）、高校進学率90%+職業専門学校5%				
環境	農業（米、キャッサバ、サトウキビ）中心で大きな工場はない				
案件	図書館	総予算	1,140,000B	申請予算	1,140,000B
予算内訳	<ul style="list-style-type: none"> ● 現在の図書館を裏に拡張して倍の広さにしたい（8×20M→16×20M） ● 読書コーナー、視聴覚コーナーとパソコンコーナーを其々部屋にし他への影響をなくしたい ● 総予算165万Bの内50万は学校が工面する（申請は建物40万、備品74万） 				
感想	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域教育センターの役割もしているため土日も図書館は開けているので支援の意義は大きい ● 過去に各種の支援を受けており、学校に力があるので他の支援先を探す事は難しくないとと思う ● パソコン室と視聴覚室にはクーラーが必要 ● 拡張工事なので独立建物より見栄えが劣る ● W・C 時は学内宿泊が可能で校長もそれを望んでいる 				

運営委員会

(2012年8月～10月)

活動	月日	場所	内容
運営委員会	8月	事務所	休み
運営委員会	9月	事務所	奨学金資料翻訳会
運営委員会	10月	事務所	台風のため11月に延期 建設プログラム検討

運営委員募集中！

一緒にキャンヘルプタイランドの運営に参加してみませんか？

通常は毎月第4土曜日に事務所に集まり、会の運営について話し合っています。見学でも結構ですので是非事務所へ遊びに来てください。

次回の運営委員会は **開催日未定のため参加希望の方は事務局までメールでお問い合わせください。**

編集後記

ネットワーク通信第59号をようやくお届けできます。例年なら夏の時期にワークキャンプを行い、記事にすることが多くて困るのですが、ここ数年はキャンプを開催していませんので、紙面を埋めるのに大変苦勞します。本来なら10月に発行するはずでしたが、可児市の絵本大賞などの関係で、発行が11月になってしまったことをお詫びいたします。

<キャンヘルプタイランドネットワーク通信 Vol.59>

発行 キャンヘルプタイランド
 発行人 西川 弘達
 編集人 坂 茂樹
 発行日 2012年11月25日
 住所 〒450-0003
 名古屋市千川区名駅南2-11-43
 NPOステーション内
 Tel & fax 052-566-5131
 (OPEN: 土曜の13~16時頃)
 E-mail: canhelp@npo-jp.net
 ホームページ: http://www.canhelp.npo-jp.net